

Computer Report

Vol. 52 No. 9 9月号 (通巻 696号)

はじめの言葉

■〇〇扱い難しではないが、ひとつ間違えば国家間戦争に発展してもおかしくない事件が、今我が国の周辺で連続して起こっている。尖閣列島問題、竹島問題、北方領土問題すべて然り。周辺諸国の国内問題を反映してのことだという説もあるが、それこそ、内政干渉になろうから、日本国政府／日本人が斟酌することではない。諸国の所業として、冷静に客観的事実として受けとめ、歴史的事実として記録し、記憶しておこう。

■首相の親書を送り返されたり、日本大使の乗った車が公道上で襲われ、国旗が強奪されるという事件まで起こった。これらを日本政府／日本人が行っていたら、周辺諸国の政府や国民は、どのような反応をさせていただこう。今後の諸国の対応を冷静に見ておこう。また周辺関係諸国の政府がどのような原状回復策をとるかも注目したい。いずれの所業も、日本は宣戦布告と了解して然るべきものだということも覚悟を持って認識しておこう。

■グローバル時代にあつて、世界全体の最適化を指向し、その中で地域周辺のリージョナルな最適化も図り、同時にそれぞれの国、企業、国民のローカルなアイデンティティと満足感を満たすにはどうすべきかを、今世紀の最大のテーマとしてきている矢先である。非常にデリケートな世界環境にあることは確かだ。こういう微妙な時期にあつて、不用意なナショナリズムは持ち出すべきではないだろう。

■小さなナショナリズムを超えた世界観を持って、各国政府が産みの苦しみと戦い、努力すべき局面にある。一国の力量のない指導者の登場は、多数の国に大きな迷惑をかける。自国の内政を干渉して欲しくないと声高に叫び挙げる国ほど、自国の問題解決を他国に求める。これも歴史的事実である。最早、こういう甘えこそは糾弾されるべき時代を迎えている。また各国国民もそれを認識し合うべき時だと考える。

■コンピュータという一大発明を第二次世界大戦の終結の時に産み出し、世界規模での情報社会を形成してきている。それは、従来のボーダーライン（国境線）を超えた経済社会の創出をしつつあるとも表現できる。政治形態、統治方式の異なる一時の政府の都合ではなく、それぞれの国民レベルで共通のコンセンサスを共有することも可能な情報社会を目指したいものである。それは今、決して夢物語ではないのだから。

■8月の下旬、1969年にアメリカのアポロ宇宙船で初めて月面着陸を果たしたニール・アームストロング船長が世を去った。彼のみならず、宇宙滞在を経験した飛行士たちの多くは、地球に帰還した後、実に数奇な生活をおくったと言われる。全地球を外から眺めた彼らの人生観に学ぶものがありたいと思う。たとえ、宇宙滞在の実体験を持たずとも、人類は十分にそれを学ぶ能力を持っているはずである。

■日本は今、無条件で再生を果たさなくてはならない時にある。我が国最大の人口セクターである団塊世代が労働現場の一線を離れた現在にあつて、少子世代が最高学府を修めても労働機会を確保できない状況は、どう考えても日本のあるべき姿でない。異常である。今日本は、周辺諸国に対して、いつ戦闘行為を起こしてもおかしくない状況にあるのだが、逆に周辺諸国からの軍事的脅威を受けたとして、果たして立ち向かえるか。（藤見）